民報
あばしり
NO.935
2013/ 9/ 8
発行所
日本共産党
網走市委員会
網走市北八西三
℡四三－四四五八
F四三－四四五七

原水爆禁止世界大会 報告会開かれる

原水爆禁止網走協議会は、８月30日午後７時からエコーセンターで「原水爆禁止２０１３年世界大会 長崎」の報告会を行いました。網走原水協の代表として参加した高久輝子さんが《核兵器のない平和な世界のために》をテーマに報告を行いました。

高久さんは８月７日の特別企画として取り組まれた「被爆者のお話」で、11歳の時、長崎で被爆した山脇佳朗さんのお話しから、戦争と原爆の悲惨さを感じた。総会に参加して、参加者の多さや海外からの代表など意識の高さを知った。「核兵器をなくす青年交流集会」にも参加して、若者の参加が多いことに刺激を受け、核のない平和な世界をつくろうと決意を新たにした。

原発問題では浜岡原発から60キロ圏にある浜名湖西岸の湖西市長の講演「脱原発、８つの理由」がとても分かりやすく良かった。原発も核兵器と同じ性質のものであり人類と共存できないと感じた。最後に、大会参加で色々な出会いと経験をすることができたことへの感謝の言葉が述べられました。

報告会の最後に、網走原水協事務局より「世界大会代表派遣へ募金にご協力いただいた企業や団体・個人のみなさんに心から感謝いたします」とお礼が述べられました。

北方民族資料館ジャッカ・ドフニ解体　35年の歴史に幕

２０１０年から閉館していた市内大曲２丁目にあったウイルタ協会所有の資料館ジャッカ・ドフニが４日に解体され35年の歴史に幕をおろしました。

戦後、樺太から網走に移り住んだ北方少数民族ウイルタの故ダーヒンニェニ・ゲンダーヌ（日本名・北川源太郎）さんらが、北方少数民族の文化を残し、伝承しようと全国からの寄付をつのり１９７８年に開館しました。ゲンダーヌさん死後、義妹の北川アイ子さんが館長となり運営してきましたが、アイ子さん死後、来館者の減少などから運営が困難となり２０１０年冬に閉館しました。

現在、収蔵品は、北方民族博物館で修復や整理が行われており、終わり次第、博物館の展示に活用される予定です。

いいだ敏勝 東奔西走！

４日に35年の歴史に幕を閉じた、資料館ジャッカ・ドフニの解体に立ち会いました。

来場者の減少や建物の老朽化に伴う維持など、管理運営が困難なことから閉館して約３年経ちました。この間、収蔵品の行き先が最大の課題でした。

資料館の最後をまかされた運営委員会の人達は、「北川ゴルゴロ、ゲンダーヌ、北川アイ子さんはじめ多くの関係者が没し、残る人達の中にもジャッカ・ドフニのもつ意味が失われつつあるのが現実である。それであるならば、ジャッカ・ドフニの収蔵品の小さな木偶や紙一枚といえども散逸することなく保存できる方法を講じるのが私たちの努め」との気持ちで保管・委譲先を北方民族博物館に決めました。

ジャッカ・ドフニとはウイルタ語で「大切なものを収める家」との意味をもちます。大切なものを収める家は今度北方民族博物館になりますが、神事・祭事の儀式用具や衣装、容器、木偶など貴重な約６００点の収蔵品が新たな展示場所で見学者を魅了し、見た人が北方少数民族に想いを馳せる日が来ることを解体された更地で思いました。

松浦さとし 奮戦メモ！

９月議会が10日から始まり10月１日まで行われます。先日、各常任委員会で補正予算の説明会が行われました。

私の所属する生活・福祉委員会には、一般会計で民生費の障がい者福祉費と同じく保育所費の補正予算の説明があり、介護保険特別会計では、基金積立金、諸支出金の償還金、保険給付費、諸支出金について説明がありました。

委員会としての審査は、本会議で議案が上程され、各常任委員会に付託された後の12日午後１時から審査することになります。また、請願の審査も行いますので、委員会の傍聴にも来てください。今、私は一般質問の準備で山積みになった資料に目を通しているところですが、小さな文字は老眼になった目には読みづらく、目がしょぼしょぼします。目を休ませながら奮闘中です。

私の一般質問は、たぶん19日になると思います。

流氷

日本で最も放射能汚染のひどいのは福島第一原発・・・その危険度は毎日のように深まって、解決への道は狭まるばかりです▼新聞の写真をごらんなさい。そこには毎日のように放射能漏れが、いつ起きるかわからない巨大な欠陥タンクが所狭しと林立し、又、原発内の地下水には海に向かう放射能汚染地下水が溢れ、さらに悪いことに高放射能のため内部調査もできず、ただ放置するだけの原子炉本体底部（おそらく溶融状態）など・・・おそらく事故発生時より日を追って悪くなる一方の原子炉です▼ここに至ったのは、当事者そして最も責任の大きい東京電力が事態に応じた適切な対策を講じることなく投げやりな目先の対策に終始し、政府は東京電力任せで、有効で強力な指導を怠って来ました。政府が何の裏付けもなしに、早期に「収束宣言」を出し、原発の再稼働を模索し、又海外への原発の売り込みを図るなど、事故解決とは全く逆の動きをしたことと無関係でありません▼こうした動きに、国内では大きな反対運動が起きました。又、外国メディアのＣＮＮでは「非常に深刻」「恐怖の館」・・・。ＢＢＣでは「汚染水漏れは説明よりはるかに悪い」などのコメントも寄せられるなど大きな反響がありました。▼このまま放置すると陸地は勿論、海など自然環境全体に放射能汚染が広がり、大変な事態になります。早期に全力を挙げてこれを防ぐ策を講じなければなりません。何よりもまず、原発を停止し全廃して、放射能を根からたつことが急がれるでしょう。（Ｋ）